



犯罪被害者等の実情と 支援について

(公益社団法人)
徳島被害者支援センター

副理事長 三原 由紀子 さん

体感治安について

「体感治安」とは、市民が自分の生活環境において感じる安全や治安のことを指します。

警察庁が昨年10月に実施した「治安に関するアンケート調査」では、「日本の治安は良い」と回答した人は56・4%、またこの10年の治安の変化については「悪くなった」と感じる人は、76・6%でした。

体感治安は年々悪化しています。「悪くなった」と感じる理由としては、「マスコミ報道やネットニュースで犯罪報道を見ることが増えた」などと答えています。

警察統計からみた犯罪情勢

刑法犯の認知件数は平成15年から令和3年まで減少し続けてきましたが、コ

ロナ禍が落ち着いて以降、3年連続して増加しています。

特にニュースで取り上げられる重要犯罪（略取誘拐、殺人、強盗、不同意性交等）が大幅に増加しているため、市民の体感治安の悪化に影響を与えていると考えられます。

また、女性をターゲットにした性犯罪、ストーカー・DV事案、子どもが被害者となる児童虐待や福祉犯罪、高齢者が被害に遭いやすい特殊詐欺や投資詐欺・ロマンス詐欺も増加しています。

SNSを利用して社会的弱者が狙われていることは憂慮すべき現状です。

徳島県の高齢者の犯罪・交通事故被害

徳島県の人口総数は全国44位であり、都会に比べ、事件・事故は少ないと感じているのではと思われませんが果たしてそうでしょうか。

徳島県は高齢者の人口割合が高く、一人暮らしの高齢者が電話やメールで特殊詐欺の被害に遭い、多額の現金を騙し取られるケースが増加し、昨年度は91件（前年度72件）、被害額は4億1129万円となつています。中には、1億3千万円の被害に遭った70代の方もいました。

最近ではSNS型投資、ロマンス詐欺被害が急増し、令和6年中は前年より倍増し、その被害額は5億8688万円となつています。

県内の交通手段は、自転車やバイク、自動車での移動が多いため交通事故が多く、人口10万人当たりの交通事故死者数は2年連続全国ワースト1で、そのうち高齢者の死者数はワースト3となつています。

夜間の外出や安全確認、交通マナーの遵守など、住民一体となつての取り組みを進めたいものです。

子どもの非行や被害の防止

刑法犯少年も大人と同様、令和3年以降増加傾向にあります。SNSに依存しがちな少年犯罪で急増しているのが薬物事犯です。

特に突出して増加している大麻は、ほかの薬物に比べて害がないという誤った認識と街頭やネットで比較的簡単に購入できる背景があります。

家庭や学校でよく話し合い、正しい知識を子どもたちに伝えていくことが重要です。

中学生になると携帯電話を所持する子どもが多くなりますが、どのような使い方をしているのか、保護者は知っておく必要があります。

SNSを利用し、ネット上での交流を深め、相手の求めに応じるままわいせつ画像を自撮りして送る、甘い言葉に誘われ家出をし、自宅に帰してもらえないなどの被害に遭うこともあります。

児童虐待事件は昨年全国で2649件発生し、過去最高の件数でした。死亡児童は52人です。

徳島県でも警察が児童相談所に通告した子どもは577人にのぼり、過去最多でした。

地域住民や関係機関の関心が高くなつており、被害児童の早期発見につながっています。

安全・安心な町づくりのために

令和5年10月に「阿南市犯罪被害者等支援条例」が施行され、市民の被害

者支援に対する関心や理解が深まっています。

被害者に対するさまざまな支援も充実してきましたが、まだまだ改善の余地があります。

市民一人ひとりが安心・安全な町づくりのためにできることを考え、それを実行することによって事件や事故の発生を防ぐことが、自分や家族、近所の人を守ることもつながるのではないのでしょうか。

そのために皆さんに取り組んでほしいこととして、次のことをあげておきます。

○自主的なパトロール、交通安全指導

○隣近所や家族への声かけ

○高齢者や子どもたちへの声かけ

○心配な情報の通報

○困りごとは誰かに相談する

「己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり」と意味を同じくする「忘己利他」という言葉があります。

あなたの周りにもあなたの言葉かけや支援を必要としている人がいるかもしれません。みんなで力を合わせて、地域の安全を守りましょう。

▼阿南市犯罪被害者等支援条例
▼遺族見舞金・重傷病見舞金
▼相談窓口等支援に関する情報
詳しくは市ホームページでご確認ください。

問い合わせ

人権・男女共同参画課
☎ 22-3094